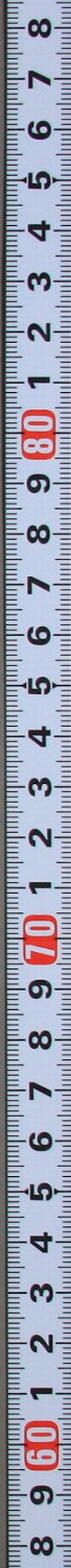




源氏目案

下あがり

急まへ













一わろくそりあてやうくうくうく

一あそん 船屋也 紀守とわけして 保のつひあや

一あて人 貴人せ

一わろく 塔子 我子 小まと云ふ

一あて人 貴人せ

一あて人 貴人せ

一あて人 貴人せ

一わろく あいこや

一わろく 阿闍梨 安惠内 法奉 慈寛 大勝 中子 天台座主

五始補阿闍梨

一わろく 阿闍梨

一わろく 源氏のついでに 息承 心とて

一人のついでに 息承

一あかい 東内也

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

朝露 貪名利 夕陽 愛子 縁

白氏文集

一わろく 諸院 別当 あが

アロク

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり

一わろく ちりちり ちりちり







一わがしれすうしられう下とだん花 九車ハ唐麻が櫛

麻毛車ホハこれ櫛櫛ともしてう眉半部細代ホは

皆わづろとられ今息雨のわづろいづれと定うう地

后員ハハの儀末濃の下とされとくわづろ此車ハ下とされ

とくひとこいども女房の常用するうハハ葉の車も下と

されとくううすはゆれづれともお透うう一すう

られうういづるびとせ 一扇のつち儀わけて袿籠のく

とわづろわ 一わさうわ さらうう田子の波

中れわさるうやうう物也カもさゆつそハ山田のそういせ

ゆうううううう 一ぬこなるうとととわとる

文選 平山之女朝局行雲暮為行雨

一わがしよとらとぞ 中文へ引給也 寶龜六年正月七日天

皇御揚梅院寧殿設真於女位上既而内院宴進青巾

馬略之河海乘 一わさぬちささ げ物儀第一秀選

と後成ら女云やそるれつれうううせバ泪のとめとつじと也

空冥やうういひちうわ也 一わけぬ我の心まどひ 羞の極也

一わさち 米食也 一わさく人のちううてん 琵琶行

長安倡家女嘗字琵琶於穆曹二善文琴長色衰委身

為商人婦 一わけうれ 童の馬手飼也 爪の総角ちううとてや童れ数名也

又車うもる 一わさく人のちううてん 安陪多竹

と物取を略す 一わけうれとさううがぬのうと



一 童子の堂女の上へさる物や水子れくものわらう物や赤皮乃  
うらごう様カサのうらごうお友かきねの皆袖ミチアソビやめい二もも

うらごう物や数うさねの面うと紫ムラモヘ衰モヘ萌モヘ美と云也  
一 わらうウラウ うらごうウラゴウ のもや三歳サイまで用て法ホウも内ウチもとせし  
おろとや天兒ウマゴ

一 わらうウラウ ぬすて何れ人ヒトのうらうらうウラウ ぶらうブラウ 一  
何うナニと心ココロちうらうらうウラウ 一 わらうウラウ けケ 化カ 氣キ

一 わらうウラウ 兒コ 袖スベ 一 わらうウラウ ぬすて何れ人ヒトのうらうらうウラウ ぶらうブラウ 一  
六徳ロクトクのハ緑キナの袍ホウわらうウラウ ぶらうブラウ ぬすて何れ人ヒトのうらうらうウラウ ぶらうブラウ 一  
えらぬととす心ココロちうらうウラウ 地チ下ゲへまマくク 懐イ 抱ダ 凡ニ 一 世セ 保ホ 氏シ 子コ 一  
もモ 履シ 後ノ 位イ 下ゲ ちチ ぬヌ べベ 一 わらうウラウ けケ の袍ホウちうらうウラウ 一 花ハナ 鳥トリ 来キ

一 わらうウラウ ぬすて何れ人ヒトのうらうらうウラウ ぶらうブラウ 一  
學生ガクの入学ガクの時トキ文章院モンギョウインの堂ドウ監ケンの書カキを

と名ナ 簿ボ 一 わらうウラウ ぬすて何れ人ヒトのうらうらうウラウ ぶらうブラウ 一  
聖セイ 廟ビョウ の字ジ 一 菅サネ 上ジョウ 三サン 音オン 清セイ 行コウ 手テ

一 三サン 糶コウ としうらうウラウ 夕セキ 香カウ の字ジ 一 保ホ 氏シ 子コ 一  
一 わらうウラウ ぬすて何れ人ヒトのうらうらうウラウ ぶらうブラウ 一  
一 わらうウラウ ぬすて何れ人ヒトのうらうらうウラウ ぶらうブラウ 一

一 わらうウラウ ぬすて何れ人ヒトのうらうらうウラウ ぶらうブラウ 一  
天テン 人ジン 也ヤ 舞マヒ 非ヒ と云トイフ  
一 わらうウラウ ぬすて何れ人ヒトのうらうらうウラウ ぶらうブラウ 一  
赤アカ 色イロ 唐カラ 衣カミ 寅トラ 日ヒ 青アヲ 色イロ 唐カラ 衣カミ 辰タツ 日ヒ 青アヲ 摺スリ 唐カラ 衣カミ 赤アカ 紐ヒモ 日ヒ

一 わらうウラウ ぬすて何れ人ヒトのうらうらうウラウ ぶらうブラウ 一  
青アヲ 摺スリ 唐カラ 衣カミ 赤アカ 紐ヒモ 日ヒ 青アヲ 摺スリ 唐カラ 衣カミ 赤アカ 紐ヒモ 日ヒ

一 わらうウラウ ぬすて何れ人ヒトのうらうらうウラウ ぶらうブラウ 一  
青アヲ 摺スリ 唐カラ 衣カミ 赤アカ 紐ヒモ 日ヒ 青アヲ 摺スリ 唐カラ 衣カミ 赤アカ 紐ヒモ 日ヒ











ワレ上  
一わづらりるもも 秘曲ヒキョクものもや

一わづられ車れじうワケ一ワケ昔れれまびありる九弄クニノのす

一わづらりるもも 老者ラウシャのさゆめづー

一わづらりるもも 一わづらりるもも 浄土チヨト也

一わづられれあれれのもろ あれといふれれ車のももや

一わづらりるもも 神系カクウの名也 和琴ワゴを見也

一わづらりるもも 折波ヲキの面一強カクるももや 居イるれれ也

一わづらりるもも 花ハナ位イ装束サウソク也 葛クワのノももや 葛クワ磁ジ是

ハ茶碗チャワンの名也 ちまよチマヨはるる物也 素ソく襖アヲジ子コ也

一わづらりるもも 一わづらりるもも

一わづらりるもも 柳ヤナギのノもも 花ハナとトいふりるもも 丹ニのノ懐イきキを

一わづらりるもも 一わづらりるもも 上代ウツタノのももや

一わづらりるもも 花ハナのノもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも

一わづらりるもも 世セ皆ミナ不フ牢ラウ固コ如ニ水ミヅ沫ウメ泡ウメ煙エン 法ホウ花ハナ結ケツ

一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも 蓮レン花ハナ也

一わづらりるもも 今イマれレもも 一わづらりるもも

一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも

一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも

一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも

一わづらりるもも 大漏オホシロ也 一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも

集シユ流リウ之ノ時トキ其ノ形カタ也 一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも

一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも

一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも 一わづらりるもも



舟竹川  
一あしれりぬ 昨春いさなり今令とくふそふんいさなるふりすせ  
一あしたして 八家世れうさ六宿せりりふり 真実心のまじなる

よいあゝねだも也

念仏も也

一匡房糖日本記二十文日後の農月と号す

一あささちうぞ 扇の女と人うらりあひ書す。びりれ

れ方也。月隠重山寺 敬亭扇論之 朗誦

一あさぢけ ちりれと山や活よる者也

一あぢろ 細代 江列田よりわれうるとなれり

一あしる扇風 昔いさ呈るとのちりし 潮者よは定り

深骨片面と出て 如也とて 凶谷せりり地あり 蓮扇凡とて也。

又いあしるれ 扇風と云地を九車れいあしる行せりり地

一あけまじり ちるき三 ちるきとちりいあひなれ也 僅る葉の芽とて

一あしり 踏院 文選 ちりきとてあしりふとあて

一秋ころり 秋よるころりいさひらりちりりちりり

一あてひてと 実ちり心也 一あつりうわ 朱緒也 花鳥事

一あしりいぢり 花 柿下 紀傳 山美 山 十一 幸山をせ

一あしりいぢり 花 柿下 紀傳 山美 山 十一 幸山をせ

一あしりいぢり 花 柿下 紀傳 山美 山 十一 幸山をせ

一あしりいぢり 花 柿下 紀傳 山美 山 十一 幸山をせ

一あしりいぢり 花 柿下 紀傳 山美 山 十一 幸山をせ

一あしりいぢり 花 柿下 紀傳 山美 山 十一 幸山をせ







一さしもさうも

一さそさうでせ

一さすが 流石

一さういも 女入のりせ

身 主人也

一さうれも 箒也 常乃十三

絃の琴也

一されも されも

一さすかん 龍鐘也 ありがれさうさう

一さうらら 雑交未さうさうのり也

一さうらら 蜘蛛 ひとつのさうさうさうさうさう

一三史五經 三史の史記漢書後漢書 又經の毛詩 礼記

傳尚書 周易

一さうさうい さあつさうい

一さ身のさう さうさう天皇 葛蒲のさうさう 依りけ 武徳殿 行幸さ 内侍 外侍 節會のさうさう 大御首 献 葛蒲 内侍

女 爲人 續命 縁を 許 良よあつさう 一献 終て 六符 騎射 乃

一さやうらら 記 仲也 細 許

一さうさうい さあつさうい

一さうさうい さあつさうい

一さうさうい さあつさうい

一さうさうい さあつさうい

一さうさうい さあつさうい

一さうさうい さあつさうい

一さうさうい さあつさうい

一さうさうい さあつさうい

一さうさうい さあつさうい



三紀の御心算一用也也。變化の物こそされせん為也。されど  
うつろひのびありらるるればなほを給らぬ也

一されらるや戸をわねる也。されらるの難也

一とくもようつろひはなうつろひ者也。ようつろひは

一まわらむもの童女也。一統のめらるるもされど。後

一のりつれられらる音もとらるべし

一うつろひもれつろひてすせなる。封也。すせのまもを

ふかす也

一三紀の守ちほらひのむすめ

前播磨守護也。とほらひの新也。お教の事也。明石入道也

一うつろひ去也。近也。万葉のうつろひとある

一うつろひもれつろひてすせなる。河

一うつろひもれつろひてすせなる

一うつろひもれつろひてすせなる

一とくもようつろひはなうつろひ者也

一とくもようつろひはなうつろひ者也

一とくもようつろひはなうつろひ者也

一とくもようつろひはなうつろひ者也

一とくもようつろひはなうつろひ者也

一とくもようつろひはなうつろひ者也

一とくもようつろひはなうつろひ者也

一とくもようつろひはなうつろひ者也

一とくもようつろひはなうつろひ者也







母文野 為神王 神皇式云元天皇即位定賀茂大神神武王初  
簡内親未嫁者卜定 一うまれまら神武此傳の也

一汝なれた諸門のつらさ 右諸門のつらさとい侍務れつらされまや

さつめられて後内裏の使臣の可なりりて初て計まらりせ

らうまら入つても給まらや是れ右諸門付人の後まらり

敷隆伝云侍務へつらま給まらんとて三年齊之同卜定す

まららと大内裏れ諸門へつらま給まらや此大内りも

右まら侍らる近衛松隈右諸門付あり内裏より一町の

まら近衛よりつら松隈より東麻屋まで母ゆららる今絶

つられ或説云右まらつらつら右まら侍らる 孟津

一うらまら 四つ地入るや 一うらまらるる 神武也

一三子星れかの 三子星外随行者十九也同任轉達 在昌賦

十一月中長至夜三子星外遠行人若み独宿梅館冷枕草

床一病身 文集 一釈迦牟尼仏子弄 金剛佛

子某らるる心也 一うらまらるる 右諸門云云御

一うらまらるる 幾瑞も奇怪も御

一うらまらるる 女めま 或説嵯峨皇女磐子内親王弄 女

文のよまらるる 昔れまら 殺の字也 愁殺まらるる

一うらまらるる 一うらまらるる 一うらまらるる

一うらまらるる 一うらまらるる 一うらまらるる

一うらまらるる 一うらまらるる 一うらまらるる

一うらまらるる 一うらまらるる 一うらまらるる











九年四十をわけて七十歳して薨るる所もあれど多分  
つとてぬめりすくちとてはけりやと

一 三河の外の岸に 沙流野也 吾守大所 僕に 松平 河内 安芸 豊  
還才 撤出 人天 心元

一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり

一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり

一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり

一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり

一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり

一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり

一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり

一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり

一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり

一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり  
一 三河のそりふとてり

目録

目録











一 さまさみ 隣家へつゝも守りやわしき女の者也

一 小山の阿比寺 向南山の寺にきりや昔は四十九院あり

一 さまさみ 氏式官政官也 びらりいひらせい

くさるや 赤大内元宗の御

一 さまさみ ぬいのかうけけけのこい 故寺のまの

たうぐ 後基 唐屋上 蔭 蔭のこい

一 さまさみ 聖河童の御 板壹ハ来立后

がねそおろし せむ 后のまふ

一 さまさみ 何 後頭 後撰云々ハの

み 元良の御子のこり 四十 葵一 竹けり 菊のさき

してこい 一 さまさみ 中宮のま

一 さまさみ 中宮のま

一 さまさみ 還遠さう

一 さまさみ 手大尺の息 望官治也

一 さまさみ 精進の方へ

一 さまさみ 柳の非情

一 さまさみ 漢武帝の赤柳

一 さまさみ 又と眼と云也

一 さまさみ 実をさへて

一 さまさみ 泉鳴松枝

一 さまさみ 又と玉

狐蔵 蘭菊 最



あり、是の黄もや

一まんち

公發給所、在焉

名淵 宋女正巨規全思一云忠一云成也

一さぬひのさるけ

松風の宿

一さるけの宿

の物多うられたるあへど女の装束とくけうらうせうめ

はの種の奏よ、女の装束とくけうらうせんそて書

一さへびくさつとらさ也

一さんらうの 海等也

一さうじの女よ日の御

一さうじの女よ日の御

時行幸上皇文御天長十一年正月二日、仁明天皇幸

在院他母治内周宿謂太后于栢者見孝ア主記

一さうじの心もつら 肥前國松浦郡鏡神し、冬寧小

友系度純靈也又鏡山し神功皇后の鏡化しと石か

わつと、鏡山とつら、是とも鏡の神と云へる、や、下の約よ、

松浦郡磯同社也とつら、は、つら、石清水八幡と同神のり

一さうじの神の神一ニの奏もへる、よ、そ

一さうじの人よ、すや也 一喜春采 呂也、及音ハ呂ヨリ律

はうつと云や喜春采ハ黄鐘調の系也平調とつら、

用り、や、可也、界 くらう、急律の呂、ちう、や、呂律、分

一行香の人よ、 花露塗香も、なつ、や、毎上人の、り也

一水切て、らう、 水面ハ内、の方也南面と晴の方とす、ら也

一云忠於長 号後野井弁 元孝天皇法孫 高名草物合好、也、云

一宜陽也 日華門の北也紫震也のつら也、先、け、宝、と、後

一水の、ん、下の別、南、紫、上の















帝行幸もさびしき也 一ゆめよこころの夢

れは元 一ゆめいふさ ひとりくらしの夢

心也 一ゆめうつらうつらの夢 ぬすつ

さか驚きしひの歌やうげの歌はうこゆゆううらふさおの地よりお

やうらうらうらとさあぢい 一ゆめよこころの夢

さうらうらうらとさあぢい 一ゆめよこころの夢

さうらうらうらとさあぢい 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢

一ゆめよこころの夢 一ゆめよこころの夢







一めりく。やうきん也。一わづらひのり。西宮の院

文難し中ねの舟勅を行はし継養の時云。今素親王家又を

記ししるす。内宮の所も是よりす。又知是院。院

のれれふらして石鏡と思はし。也。わづらひの院舎に

わづらひ五位六位のほし。いみじくも

一めりく。やうきん也。一わづらひのり。西宮の院

目鬼や。わづらひのり

一みづがひのり。わづらひ

一たひらうて。もあつんと

一たひらうて。もあつんと

一たひらうて。もあつんと

一たひらうて。もあつんと

一たひらうて。もあつんと











ぶらんくうの沈のあき記せ云下札とつれり打交ハ下札しけ  
 地波のま地のまれ終也きゆひのくたは花足とくくく  
 かんも河海ハいさくの系うそむまびくはさうされうあつ  
 ろくもきゆひのくまにあまびむまびや

一 氏ア本物志ハ尸終りりて 氏ア本物行兼明親王 二男 コトユキ イサカ イサカ

一 みるりの終とすれ くるまれ終り或人の飛文ハ獲ちり

一 くるくも也 舟の心もおうと對面もそくくう一終り終院ハ

て久ちくちり一されば我も人も幸得て河のも音ハぬくうと云心

一 雲のうらもせぬんや 一 みまうて後も約まよ 松風ハ

身せ入るくくくく海とくくも也 是ハカまうくぬべ一後世とて

とくんや 一 みまうてわげを給 香灯

奉雪撥藤看 子元

一 門のわつらむいりあも 康子

内親主 延元 今カニ コラキ 皇女 村正 帝 弘 微 高 一 かり けつ ハ 九 奈 右 意 お お ひ

てまのくも終ける例れ多也 一 みまうてえまを給交つ人とく

一 同又節とめ終り例のうら也 一 節と交江一りを

くくくも吾おまうえ見よとてく

一 みまうてのうや 六位の人明文ハうとまよ

一 みづ鳥のくもまもく ぬくくくく

一 ぬあーまうら 是とてまうら

一 みづむま 踏舟れ人せ變意するハ音ざうらと水譯と云ゆ

一 け飯ちが用さあつハ入て也譯と云ハ譯終ハ馬下水人

一 音酒ちがれ用さあつハ入て也譯と云ハ譯終ハ馬下水人



おのよき密きて心ゆくれ 一みほちびらるるまきり  
力とすて勝負するや。まきりりりるほくむきや

一みさくらと近アちども奪よつづひのめぐりこころのれらそ

いごも リキヤノニヤカガヒ 孝ア日記 奪親主つ着地摺布衣及袴 或は家本蘭小

襖子餅袋 今案是ハ王御の奪親の殺事也 布るまきりの摺

の支もとらる。袴も同或は家本蘭地のまきのまきり

せもさる。襖子ハ下よまきねらるまきのまきり

冠ハ巻纏の冠とさるべし 仁和寺の行幸 行平中納言大奪親の

り衣よ鶴と文よぬひらるる。王御の奪親のまきり

一みさくらあつら 延也昌泰行幸制也 法片に必長袋の袍ちり。身

一の云つにまよひ月さるるまきり。河 延也四年十月九日大井行幸

ハフク 上服赤糸袍黄柳深水袍 ハク 文竹風晴儀 ニ法片 長袋袍着すつ時ハ

一みあつら 延也 ミテール 子のあつらとさるる也

一みさくら風のちわさ ミタリ 丸くち

一みさくらあつら中 ハク 三種ハ黒白

一みあれ タニヨリヒメ 玉依姫の別電

一みさくら カミヤ 神館のまきり

一みさくら カミヤ 神館のまきり

一みさくら カミヤ 神館のまきり

一みさくら カミヤ 神館のまきり

一みさくら カミヤ 神館のまきり

一みさくら カミヤ 神館のまきり























うら時くもせ

一 一のそ 帆のうらもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ 試まき ちんちんもせ

一 秋風系 盤歩御也

一 一の下のふい 四位正下加階也

正四位下と云ふやうい加階と云ふは官とすむむり契れ時々の

行幸もれ時の御まき 一 一のそ 藤氏のちんちんもせ

のちんちんもせ 一 一のそ ちんちんもせ 今葉

ちんちんもせ 一 一のそ ちんちんもせ 一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ 一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ 一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ 一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ 一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

一 一のそ ちんちんもせ

日本記

日本記







ら守故親主の子は准して四後日叙し終んと云ふなり

一或るつれ心は此と河延長四年七月九日水記日去月大

三日或る有養有試判丈共判及才者二人以下略之此亦試一

物歌とあるは延長應和康保ホの例也

一或るのれ観世音寺 在筑前志沙赤満塔造筑前國觀

世音寺別名見万葉志云云此の巻也

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或る三様山びやぬこらにぬるしむとせ一水はつらとつら

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ

一或るつれむづぐらハミチヲ流りずも也河よりあふりてさへ



























陽成院の御母二条后也業平守将りつらるるあり。伊勢物語に云く

「...それとも...」

「ひさしうひしひさしう也」

「...」

「...」

「...」

「...」

「ひさしうはさしうはさしう也」

「ひさしうの歌...」

「...」

「...」

人の名也

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」















こころもびもれいれ種不可成とれ心成りつめり

一物いつくまー三海ぐ 深のまぐかりしまふよまうて 心成り

一物いつくま 愛もそも何れも 心成り 柳枝をけつり

てれ冠纏ふ物忌とて付くく 心成り 白狐よあて付く也

一物いつくま 付くく 心成り 心成り

一物いつくま 是れ姓いさる人あれど世よおとるて

友位つやーく 心成り 心成り

一物いつくま 一人の根本の姓といふ也

一文章生 儒者の名ふ所の官也

一物いつくま 心成り

一物のけつり。物いつくま也 一物いつくま 心成り

一物いつくま 心成り

一物いつくま 心成り

心成り

一物いつくま 心成り

心成り

一物いつくま 心成り

心成り

一物いつくま 心成り

心成り

一物いつくま 心成り

心成り

一物いつくま 心成り

一物いつくま 心成り

心成り

一物いつくま 心成り

心成り

一物いつくま 心成り

一物いつくま 心成り

一物いつくま 心成り

心成り

心成り



一 此がらと云 物成と法よまうらちり

一文多き 源氏物語代 喉疾 保氏信云云 哉

一 ちかるとい 柳のぞき 曾中れら 花のやちど 只読中

のさゆちり 一 ちかこころ ちかあつて ちかて

秦始皇の 楚莊襄王の子 即位 宣の后下 通て 西望云

一 ちかこころ さいまの 念のうらまに 晋石季倫 君金谷 春夜 満

林朝作 五十里 涉障 逢春 不遊 未恐 是 毒 患 入 承天

一 ちかこころ 家 大和 物成云 桃園 兵 つかうと ちかて ちかて

月海 日 一 ちかこころ 又 括遺集 一 桃園 一 位 竹 けり 前 後

院 一 ちかこころ 是 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

文人 学 文 する 人 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

云 心 九 文 人 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

大 子 の 出 来 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

子 生 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

の 女 の 親 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

夕 暮 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

眼 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ

落葉 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ 一 ちかこころ











一 せらりされ日うちれど... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 小貳任... 七月勅諸國守... 國始自... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 せらりそく... 文あぶ... 一せんく... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 せらりそく... 文あぶ... 一せんく... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 せらりそく... 文あぶ... 一せんく... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 せらりそく... 文あぶ... 一せんく... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 せらりそく... 文あぶ... 一せんく... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 せらりそく... 文あぶ... 一せんく... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 せらりそく... 文あぶ... 一せんく... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 せらりそく... 文あぶ... 一せんく... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 せらりそく... 文あぶ... 一せんく... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 せらりそく... 文あぶ... 一せんく... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...

一 せらりそく... 文あぶ... 一せんく... 仁徳天皇四年始置諸國史仁明天皇義和元年...













一すづの ともども

一すづい 行るべし

一すれこ せんともども

一すづらひらき

一兼在院行幸

兼在院有法皇

一院

のうら

一すさめぬ 不愛

へらと離れられ

われわれ

一すづらう

一すづらう

一すれこ

一すづらひらき

一兼在院

一院

のうら

一すさめぬ

一すづらひらき

一すれこ

われわれ

あり

一すづらう

一すれこ

一すづらひらき

一兼在院

一院

のうら

一すさめぬ

一すづらひらき

一すれこ

一すづらう

の比月

あり

あり



人の心は... 去る約冬のうづり... 衣女けり

一すまう... 幸ぬ... 藤雲女院崩れ依諒周被停止也

一すまう... 中サ得の... 中サ得の... 中サ得の...

一すまう... 此娘の... 中納言の... 三人あり中... 衣版

一すまう... 衣版の... 母我版の... 母我版の...

一すまう... 衣版の... 母我版の... 母我版の...

一すまう... 衣版の... 母我版の... 母我版の...

一すまう... 衣版の... 母我版の... 母我版の...

一すまう... 衣版の... 母我版の... 母我版の...

一すまう... 湯づけ... 湯づけ...

一すまう... 梅... 梅... 梅...

一すまう... 夜... 夜... 夜...

一すまう... 紫蔭院... 紫蔭院... 紫蔭院...

一すまう... 今... 今... 今...

一すまう... 今... 今... 今...

一すまう... 今... 今... 今...

一すまう... 今... 今... 今...

一すまう... 今... 今... 今...

一すまう... 今... 今... 今...

一すまう... 今... 今... 今...

一すまう... 今... 今... 今...

一すまう... 今... 今... 今...

一すまう... 今... 今... 今...







しる物もしける

しるものあり

八家まよひ

まのくさるるしや

しるものあり 祝の文殊の眼

いぬの眼石と云ふは祝の物不書とあり菅家の哥

しるものあり 神徳三年 陰徳進ね撲人七月十六七日

撲とる作也 女六日 女六日 女八日 石谷 大月 女七日 女九日 搦

小月 女八日 徳玉の徳人 徳集てゆんず 兵後の石谷

とくわてゆんずとめると云

しるものあり 後者下人 女八日 徳の人ありゆんず

しるものあり 出家也 一すく 多集也

大母



